

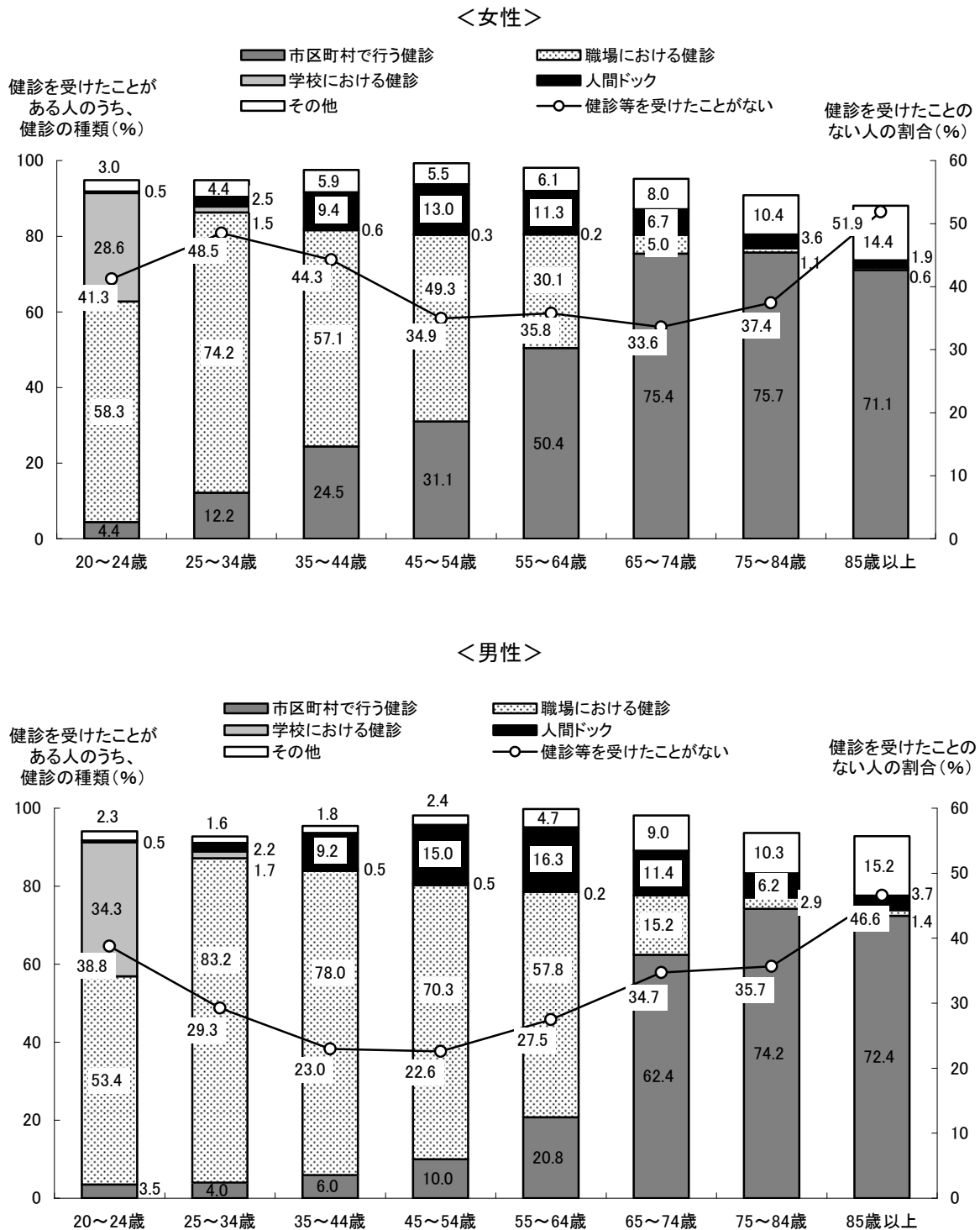
## II 人権が尊重される社会の形成

### II-4. 生涯を通じた男女の健康支援

#### 1. 年齢階級別健康診断受診率

全国で健診を受けていない人を年齢階級別に見ると、受けていない人の割合が最も高いのは、女性で85歳以上（51.9%）、続いて25～34歳（48.5%）、35～44歳（44.3%）である。男性は85歳以上（46.6%）、続いて20～24歳（38.8%）、75～84歳（35.7%）となっている。

図表 II-4-1 年齢階級別健康診断受診率（全国）



注：検診の種類は複数回答

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成19年）

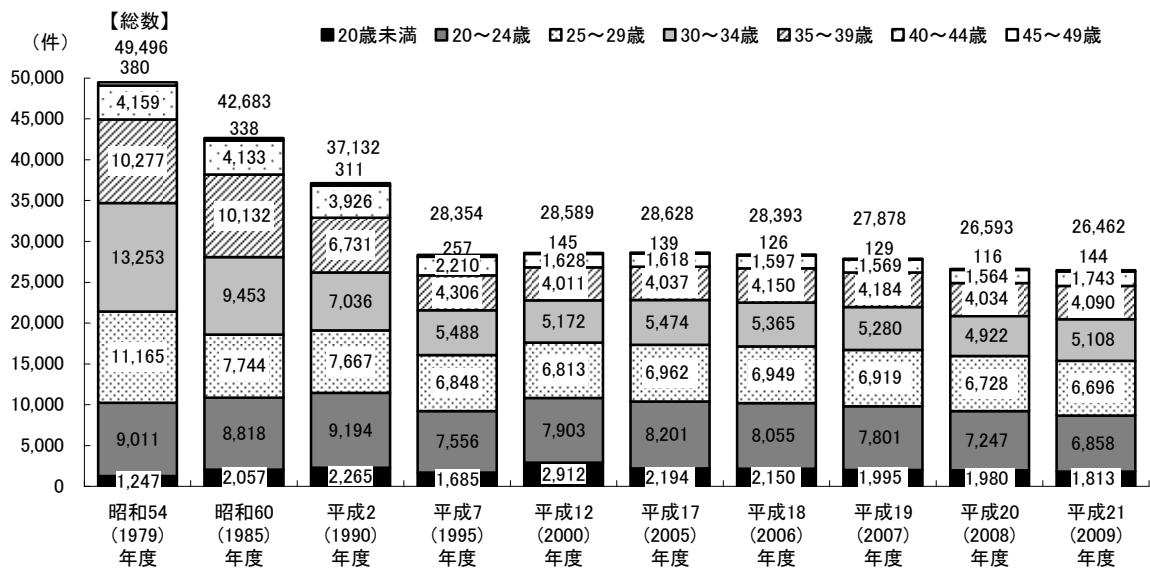
2. 人工妊娠中絶件数の推移

人工妊娠中絶件数は、都では昭和54（1979）年度の49,496件から減少し、平成7（1995）年度以降は28,000件前後で推移していたが、平成20（2008）年度に26,593件とやや減少し、平成21（2009）年度は26,462件となった。

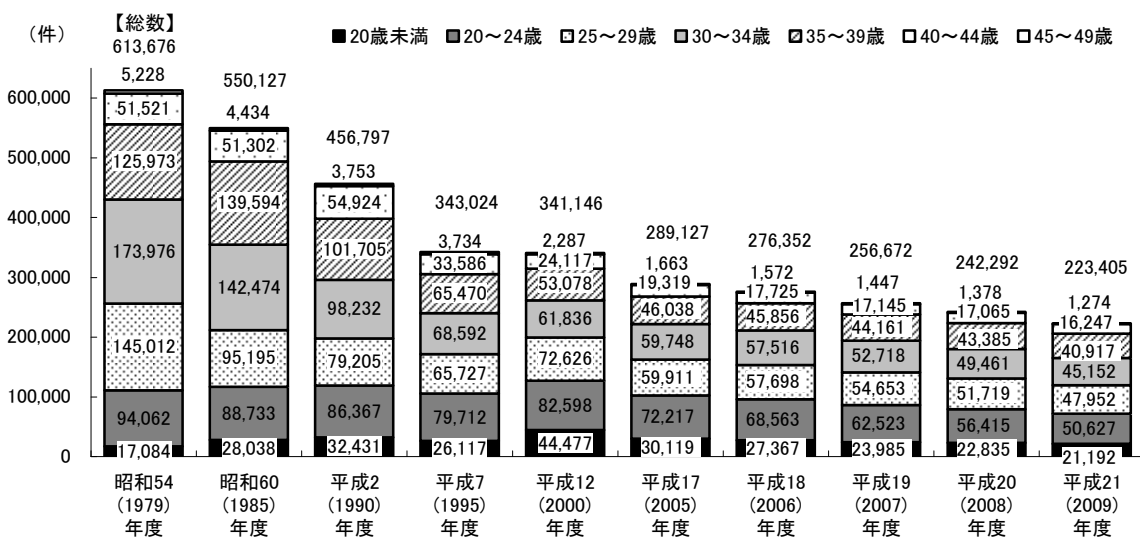
全国では昭和54（1979）年度の613,676件から減少傾向にあり、平成21（2009）年度には223,405件になっている。

図表Ⅱ－4－2 人工妊娠中絶件数の推移（都、全国）

<都>



<全国>



注：年齢不詳の者を除く。

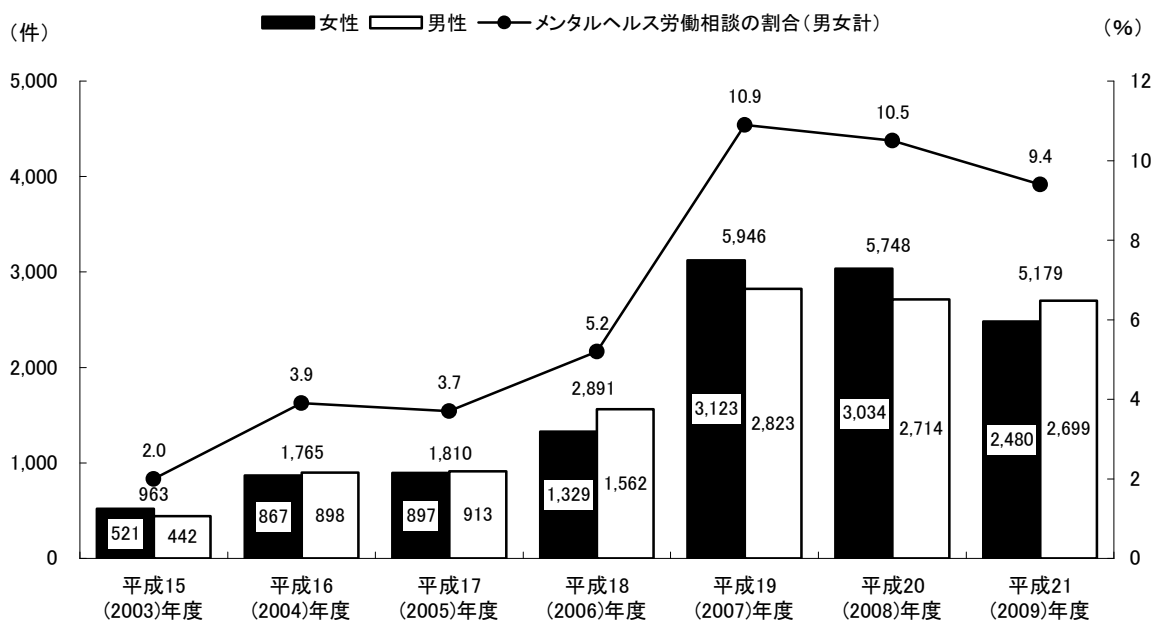
資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

## Ⅱ 人権が尊重される社会の形成

### 3. メンタルヘルス労働相談件数

都のメンタルヘルス労働相談件数は平成 19（2007）年度までは増加傾向にあったが、その後は減少傾向が見られ、平成 21（2009）年度は女性 2,480 件、男性 2,699 件となった。

図表Ⅱ－４－３ メンタルヘルス労働相談件数及び相談割合の推移（都）



注1：メンタルヘルス労働相談の割合は、労働相談全体に占める割合。

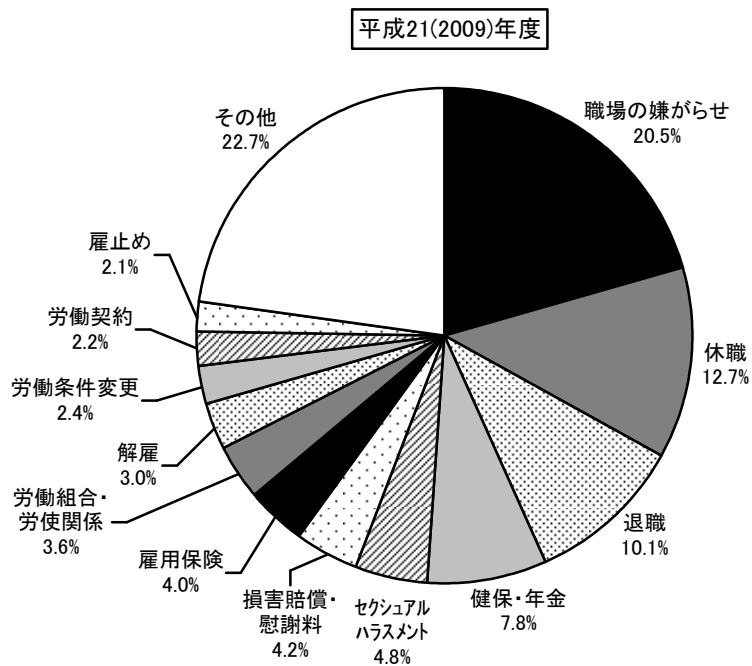
注2：労働相談・あっせんの中では、本人自らが「心の問題を抱えている」と話した場合、使用者との調整の中で心の問題が浮かび上がってきた場合のみ「メンタルヘルス」とし計上している（相談担当者から確認するような行為は、労働相談の円滑な進行を妨げるおそれがあるため）。このため、数値の扱いには留意が必要。

資料：東京都産業労働局「労働相談及びあっせんの概要」

4. メンタルヘルス労働相談の内容

都の平成 21（2009）年度のメンタルヘルス労働相談の内容を見ると、最も多いのが「職場の嫌がらせ」で 20.5%、続いて「休職」が 12.7%、「退職」が 10.1%の順となっている。

図表Ⅱ－４－４ メンタルヘルスに関する労働相談の内容（都）



注：上位 12 項目のみ表示

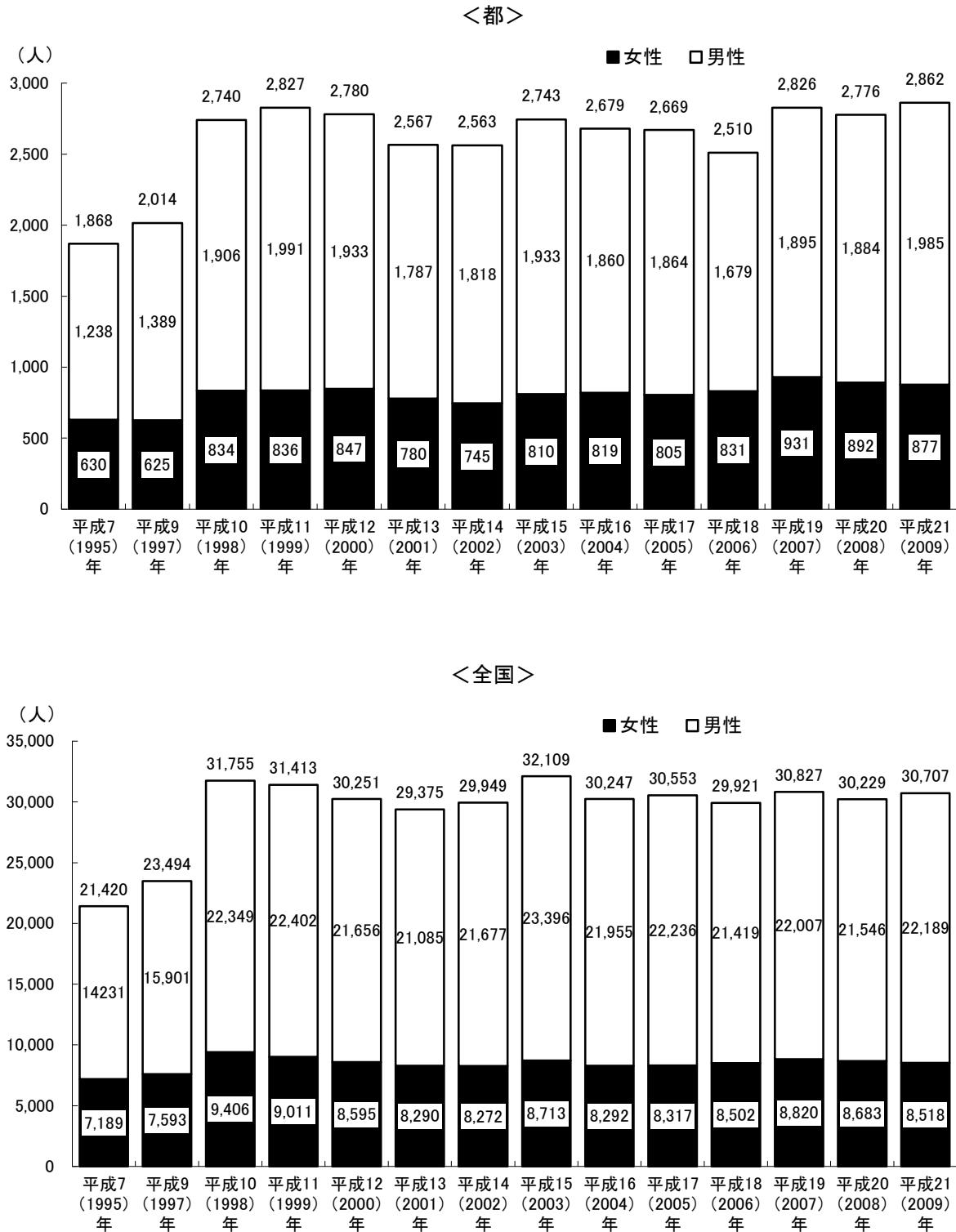
資料：東京都産業労働局「労働相談及びあっせんの概要」（平成 21 年度）

## Ⅱ 人権が尊重される社会の形成

### 5. 自殺者数の推移

全国的に自殺者数が急増し3万人を超えた平成10（1998）年に、東京都の自殺者数も同様に急増して、2,740人となった。その後、増減を繰り返し平成21（2009）年には過去最多の2,862人となっている。女性の自殺者数は各年とも全体の3分の1程度である。

図表Ⅱ－4－5 自殺者数の推移（都、全国）

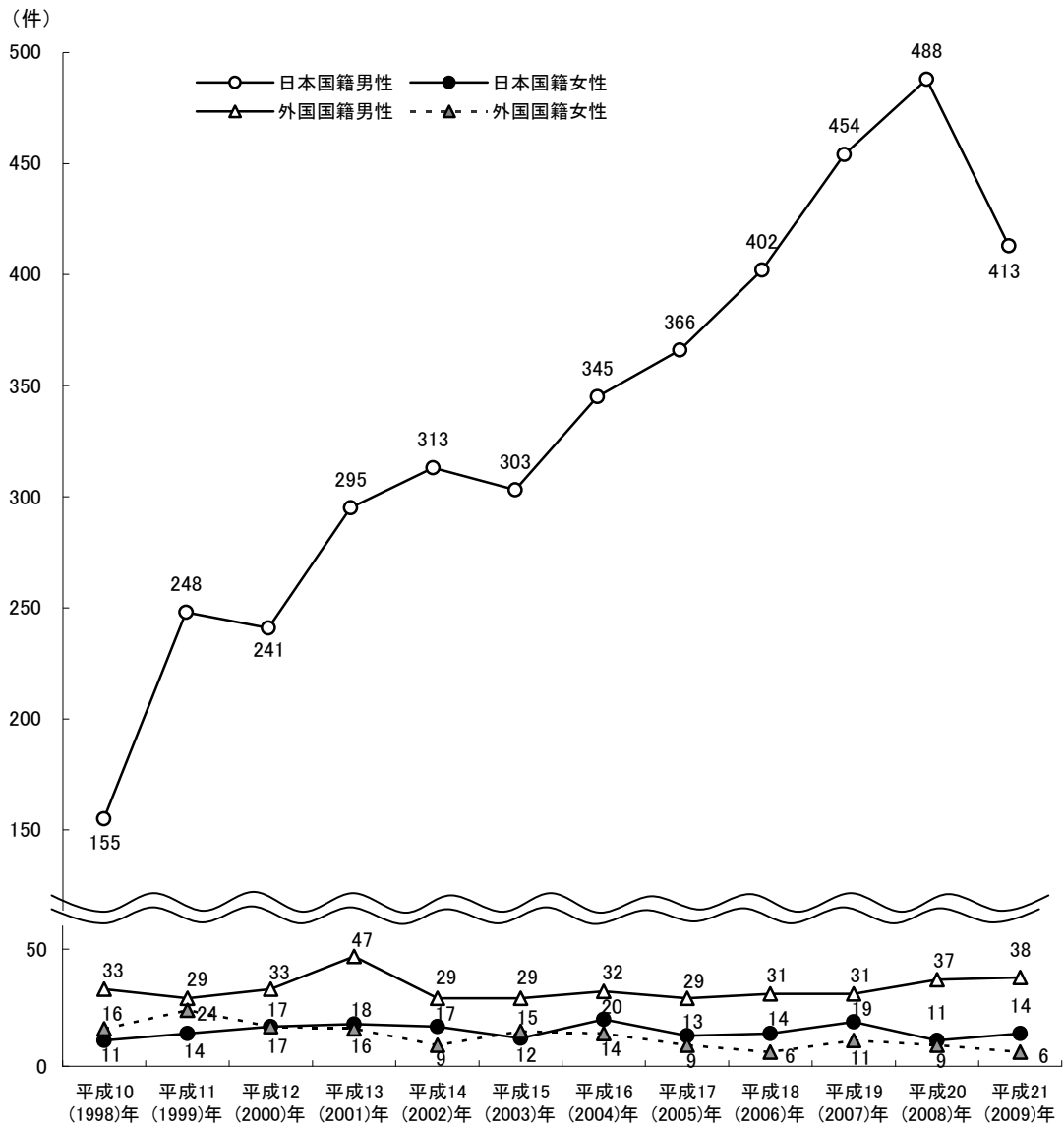


資料：厚生労働省「人口動態統計」

6. HIV 感染者、AIDS 患者数

都内における日本国籍男性の HIV 感染者及び AIDS 患者の報告数は、平成 20 (2008) 年度までは増加傾向にあったが、平成 21 (2009) 年度には大幅に減少し、413 件となった。

図表Ⅱ-4-6 HIV 感染者、AIDS 患者数の報告数の推移 (都)



注1：HIV感染者とは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）が体内に入り、「感染」した状態になっているが、「発症」していない状態の者を指す。

注2：AIDS患者とは、HIVにより免疫機能が低下し、「指標疾患」と呼ばれる決められた疾患の症状が認められた者を指す。

資料：東京都福祉保健局「平成21年の東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び検査・相談事業の実績」